

3Com LanPlex/CoreBuilder 2500/6000 オペレーションメモ

全般

- コマンドは階層的になっていて、現在受け付けるものがメニューに出ているが、階層のトップレベルから全ての階層のコマンドを一気に打っても良い
- コマンド階層を1つだけ上に上がるときには q を打つ
- プロンプトで Esc を叩くとトップレベルに戻る
- 設定の最中に抜けなくなったときにも Esc を使う
- シリアルコンソールを console ポートに接続(9600bps, 8bit, noParity になっているのが普通)。
- 100BaseTX のポートのみ duplex の設定ができる。10Base は enable/disable のみ。autonego は 100 も持っていない。

設定の前に

- admin で login したら system nvdata reset で、現在の設定を消去する。
- admin で入りなおす。
- system display で、バージョンを確認。
- system pass で admin と write にパスワードをつける。
- system name で名前をつける。
- system time で時間を確認。
- system telnet timeOut on (telnet して何もしないとタイムアウトするようになる)
- system telnet interval 3 (タイムアウト時間を3分に設定)

簡単な IP ルーティングの設定

- bridge vlan remove で、default vlan を消す。
- bridge vlan define で vlan を作成する。Protocol Suite でさしあたりは IP と答える。VLAN Identifier は他と重ならなければどんな数字でも良い。この ID はタグなどとは無関係。ネットワークアドレスを振るが、これはインタフェースアドレスではないことに注意。つまり、サブネットアドレスまでで、ホストフィールドは 0 にする。
- ip interface define で IP インタフェースを作成してインタフェースアドレスをつける。
- ip routing enable
- ip rip mode を設定。
- 必要があれば ip rip cost を設定。